

西川 コミュニティだより

第52号

■発行／西川地域コミュニティ協議会

電話 0256-88-5900

■発行日／令和4年12月25日

FAX 0256-78-7544

■〒959-0423

■ホームページ／<http://kasaboko.jp>

■住所／西蒲区旗屋701-2

お正月

日頃二十歳前後の若い人々と日本の伝統文化の大切さを語り合い、そして今後に引き継ぎたい文化の共同研究を楽しんでいます。

日本的ということ、「和風」「和様」とも呼びます。

「和」の漢字の三千年前の形を分析すると、左側は片仮名の「ノ」プラス「木」、そこから「のぎへん」と称し、実った木々や作物をかたどったものです。すると人々の心は朗らかになり、だから右側に「口」(マル)が付いているのです。まためてみると「和」字の意味とは、「丸く収めて角が立たない」となりましょう。なめらかさを好み、もめごとを好まない国民気質が、この一字に詰まっています。

残念ながら「和服」「和風建築」「和食」等がすたれつつある一方、外国人の間でもはやされているのはおかしな話です。今一度身近なところから日本的情緒、所作の見直しを少しずつでも行われればよいと念じつつ、講義をしています。

手書き文字もその一つ。学生と書初め指導に伺っていますが、あの墨の香りと心の集中、穏やかな気持ちにひと時なるはずです。

新潟大学教授 岡村 鉄琴



割烹かき正(新潟市)
床の間の前で学生とともに

軸は中田瑞穂画「鮭」

※次頁へ



▲中学校運動会



▲初雪と残り柿(九番町)

(R4.12.2)

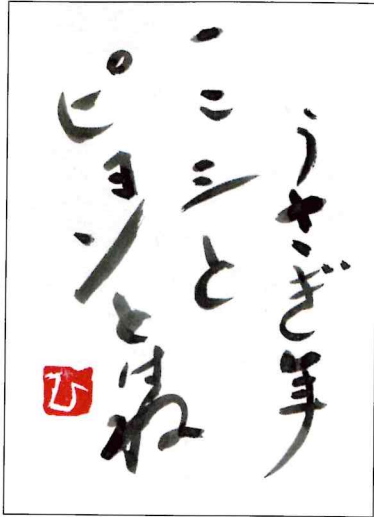
■西川地域の総人口:10,575名(-11名) ■男:5,112名(-4名) ■女:5,463名(-7名) ■世帯数:4,062戸(+2戸)

()は、前号との比較 (令和4年11月末日現在)

※前頁より

さて、私ならではの学生への特別な課題の一つに、私あての年賀状の投函があります。表裏ともに印刷物は不可、書または絵、版画、デザインのなものでもOK。とにかく手作り感のある個性的な発想を求めます。すると毎年発信ゼロ枚の学生も単位がかかっているものですから、驚くほどの、多彩な力作が大量に飛来します。封筒、宅配便も珍しくありません。

定着するかは別にして、まず体験からです。それを一枚一枚じっくり見てにやにやしなながら、お屠蘇を口にするのが私の元旦の仕事始めなのです。うさぎ年にどんなものがやって来るか、また床の間にとの掛け軸を飾ろうかといったことを思いながら、伝統文化に彩られた元日を迎えたいものです。



鉄琴賀状

「うさぎ年 一三三ピョンとはね」

【地域】

4年振りの開催に感謝

がっとしかわ実行委員会 大瀧 一生

10月9日、越後にしかわ時代激まつりを4年振りに開催する事が出来ました。

私は初めての参加でしたが、実行委員会のメンバーにとっても久しぶりの開催であり、コロナ禍での開催は初めての事で戸惑いもありましたが皆で話し合い準備して来ました。

代官役は、鈴木浩行 西蒲区長にお願いし快く引き受けて頂き、会場をととても盛り上げてもらいました。

また、令和2年に西川地域の皆さんから多くのアイデアを出してもらい作成した「にしかわのうた」を制作メンバーの1組であるラフベリーのお二人に歌って頂き、ようやく皆さんの前で披露することもできました。

当日は、会場のふれあい公園、沿道にも多くの皆さんに足を運んで頂き、開催に携わった人間としてうれしく、このお祭りが西川の自慢のお祭りになる事を期待しています。



【活動報告】

敬老会今年の様子

2年ぶりに皆さんと楽しみました

福祉保健部会

コロナウイルス感染拡大防止のため皆さんで一堂に集まってお祝いすることができなかった敬老会、今年は、「西川多目的ホール」を会場に実施できました。

今年も新潟市からの助成を受け、西川地域内75歳以上の長寿者を「高齢者の健康を祝福する」ことを目指し、西川コミ協関係者と多くのボランティアが協力してお祝いできました。

記念式典に引き続き、鼓調（万代太鼓）及び酔龍太鼓の明るく元気な演奏、ピアノとサクソスによる素敵な演奏を楽しんでいただきました。以前の会場と同じように飲食は禁止でしたが、会場ではアトラクションで和やかな空気を堪能していただけたと感じました。

当日の敬老会実施に向け、7月から準備に携わった多くの方々に厚く御礼申し上げます。



〔教育〕 稲刈り

鎧郷小学校五年担任 笠原 裕子

9月26日に鎧郷小学校の5年生21名が稲刈りをしました。

5月に田植えをしてから、およそ4か月。大きく成長した稲を収穫できる喜びと初めての体験にわくわくしながら、作業を始めました。地域の稲刈りボランティア20名の方から、稲刈り鎌の使い方や稲の束ね方を丁寧に教えていただきました。

束ねた稲を学校のフェンスにかけて、しばらく天日干しをします。そうすることによって、お米一粒一粒のうまみが増します。おいしいお米を食べることができ喜びを想像しながら、たくさんの汗を流し、みんなで協力して頑張りました。また、機械にたよらない作業の大変さも実感することができました。

地域の方のご協力のおかげで、子どもたちにとって、とても貴重な体験ができました。ありがとうございます。

これから、収穫したお米をどうするかを話し合い、活動をつなげていきます。



〔講演会〕

町づくり講演会が開催される

広報まちおこし部会会長 江端 繁



西川地域自治会町内会連合会の主催による講演会が、12月8日、新潟県女性財団理事長で市教育委員の畠山典子さんをお迎えし、総合教育センターにおいて開催された。(参加者105名)

畠山さんの豊富な教育現場での活躍や行政経験を通してポストコロナの新しい社会づくりに当たってのあり方などについて熱心に語ってくださった。

会場には、地元はもとより近隣の区からも諸団体の女性の方々がお見えになり、熱心に聴いておられた。

これからの社会は女性の皆さんの活躍が求められる時代を迎えるが、新潟県内の現状はご自身の経験などから、男性に比べまだまだ女性の活躍の場が少ない事、社会が女性をリーダーとして育てて来なかった現実の姿などを、詳細なレジュメをもとに語っていただいた。

学童保育の現状、避難所運営に当たって女性責任者の数が少ないこと。女性として地域家庭においてどういう生活、生き方をしてい



きたいのか。自分の暮らしのなかで男女それぞれが自分の目線で考え、提案できるようにすること。またお互い相手の生き方を尊重しあうこと。リーダーの姿も多様化している中で、女性がもっと自信をもって地域の役員などになること。等が話された。

意見交換では、各世代の男女の方々が積極的に意見を述べられ、とても充実した講演会となった。

【文化】

芸術・芸能秋まつり

西川文化協会 芸能部長 多賀 幸治

新型コロナウイルスの発生状況が少し落ち着き、今年こそはと、感染症対策や、換気タイムなども忠実に守り、3年ぶりに開催することができました。受付で説明をするスタッフ、来場者の様子など例年とは、全く違う雰囲気の中での開催となりました。各団体が久しぶりに皆さま方の前で披露する機会をいただき、全員が輝いて見え、お客さまと、出演者が一体となって喜んでいく姿に感銘を受けました。多くの方々のご協力をいただき、無事終了することができ、改めて感謝申し上げます。



アンケートの結果も大変嬉しく、その一部を紹介いたします。

※西川の文化意識の向上が素晴らしく、良い刺激がありました。

※子どものパレー、見た瞬間に涙が出ました。

※コロナ禍で苦労があったと思いますが、出演者も、お客様も「心の栄養」が必要なんだなと思いました。



【高校生奮闘記】

北斗祭(文化祭)と建築甲子園

新潟工業高校・建築部の挑戦



私たち建築部は10月29日に行われた北斗祭で、今までのイベントや活動で製作・寄贈していただいた、いろいろアートや、かのうハウスにある古いラジオやダイヤル式の電話などを展示しました。今回の文化祭は3年ぶりに保護者・家族を招いての開催となりました。私たちはこれまでの活動を多くの方たちに知って頂くため、テーマを「建築部まとめかのうハウス編」としました。

会場では備長炭を詰めた脱臭袋も販売し、好評を得て、沢山のお客様に購入して頂くことができました。今年は保護者などだけの入場でしたが、新型コロナウイルスが収束した際には西川地域の方々にもぜひおいで頂きたいと思っています。

(山崎 大誠)



建築部では「かのうハウスのこれから」だいろとの関わり未来の越後曾根」と題して作品を作り建築甲子園に出品しました。作品は県大会で優勝でき、現在全国大会で審査を受けています。



作品製作の中で様々な苦労がありました。特に、越後曾根の良さをどう表現したら分かって頂けるかに力を注ぎました。部員の意見だけでなく、曾根や西川の方のご意見もお聞きして取り入れ、アプローチとなる書き出しの文章もしっかり纏めることができました。

今回、作品を作り上げ、越後曾根の良いところを深く見つけることができ、小さな力ではありますがありますが、私たち高校生が自ら考えることで「地域」をより良い場所に変えて行けることがあるのではないかと考えました。

(渡部 響)



【文化】

「越後西川ふるさと事典」の刊行と
出版記念資料展の開催

西蒲・曾根郷ゆかりの文人研究会事務局長 多賀 淳一

西川地域コミュニティ協議会と西蒲・曾根郷ゆかりの文人研究会は、令和2年3月に『西川郷土史考』として四年余りの活動の成果をまとめました。

その後、加えたい内容や改善点を考慮して、より手軽に要点を読み取ることができるよう一冊として、今回『越後西川ふるさと事典』を刊行いたしました。関心をお持ちの方は、西川地域コミュニティ協議会または編集委員にご連絡ください。限定された冊数しかないので、在庫がない場合はご容赦ねがいます。



また、去る12月3日・4日の両日、本冊子の出版記念企画として「第六回西蒲・曾根郷ゆかりの文人資料展」を多目的ホールで開催しました。約90点の西川地域に関連する資料の展示及び岡村鉄琴先生



による講演と展示品の解説を行いました。多くの方々からご来場いただき盛況であったことと深く感謝申し上げます。今後も西川地域の人物・文化等の発掘に努めていきたいと考えています。

【防災】

ストーブ火災に注意!!

西蒲消防署西川出張所長 石山 拓己

一段と寒さが厳しくなり、お宅では、暖房器具が活躍していることと思います。

毎年11月から3月にかけて、ストーブが原因の火災（以降、ストーブ火災）が増加する傾向にあります。

ストーブ火災の原因の一つとして、洗濯物を乾かすため、ストーブの上に洗濯物を干す行為があります。「早く乾かしたい」、「室内の乾燥を防ぐため」といった気持ちは分かりますが、ストーブの上で洗濯物を干すのは大変危険な行為です。洗濯物が濡れている間は、ロープやハンガーにしっかりと掛かってい



气流でひらひらと舞い、落ちた洗濯物がストーブ上で燃えて火災に発展します。その他、燃料の油種間違い等があります。いずれも、思い込みや勘違いによる「少しの油断」から火災が発生しています。忙しい毎日ですが、ストーブの取り扱いには、油断せず、安全・適正に行い火災を未然に防ぎましょう。

【環境美化奉仕活動】

ハナミズキ通りがスツキリ

越後西川ライオンズクラブ会長 桑原 淳一

令和4年は夏と秋の2回、西川出張所周辺の街路の草取り、枯れ枝せん定、植樹に取り組みました。この区域、出張所前は行政が整備しているのですが、周辺は手入れが行き届かず荒れ気味でした。

夏・秋の奉仕は早朝の2時間、毎回軽トラツク2台は雑草、枯れ枝、落ち葉が積み込まれます。出張所や福祉センターを訪れた方には周辺の街路も散策し、スツキリ整った「ハナミズキ空間」を楽しんでください。

「環境」は当クラブの地域奉仕の重要な柱です。曾根神社秋季大祭前には神社脇の広い道路と西川図書館前庭の除草を毎年続けています。「SDGs」にふさわしい奉仕活動として定着しています。

環境以外では西川地域5カ所の保育施設にXマスプレゼントを届けています。会員がサンタの衣装で訪ねると園児は大喜びです。小学生の放課後ひまわり教室（3カ所）に長年寄付を続け、市から表彰を受けました。



【幼児教育】

地域内の幼稚園・保育園のシリーズ 29

ガンバって かいたよ！

鑑郷保育園

ハロウィンくん

オバケのお面をつけて、みんなでクッキーもらって喜んでいるの。

(あんず組(3才児))

安藤(1才児)

いばり組(3才児)



角田登山

みんなで登って楽しかったよ。空がきれいでお弁当がおいしかった！

(ほんまおと)

本間 桜音

かもめ組(5才児)



荒馬踊りをしているよ

みんなで太鼓にあわせて、荒馬踊りを楽しんだよ。

(さわぐりあき)

澤栗 暁

ひばり組(4才児)



【国際通信】

フラダンス

オーリス雪恵 (六分出身)

コロナ規制も緩和され、少しずつ日本人観光客も戻りつつあるハワイ。その影響か、最近やっとフラダンスショーもいろんなモールで再開しました。

フラダンスと言うと、ガラススカート又はムームードレスを着た女性のダンスだと想像されがちですが、男性のフラダンサーもいます。

その昔、筆記能力をまだ身につけていないハワイアンの人々にとって、フラダンスは地域のニュースやイベントを伝えたりするコミュニケーションの一環でした。

二百年前には一時期禁止されたこともあるフラダンス。ハワイアンたちの熱心な説得により復活し、今では観光客にもローカルにとっても愛されている伝統文化です。

毎週火曜日にはロイヤルハワイアンセンターで無料のフラダンスを受けることができます。又は、毎日夕方になるとアラモアナセンターで、フラダンスのショーもしています。活気溢れる元気なフラダンスから、ウクレレで奏でられるバラードの優しいフラダンスなど様々な表情を見せてくれるフラダンス。観光客のみなさんも喜んでいてのではないのでしょうか。



【農業】

イチジクを植えて体力維持を？

升岡 中村 肇

定年後の仕事として兼業で農業を続け、退職後は趣味を楽しみ余裕を持って農業ができるはずでした。

イチジクの苗木を新たに少し植え、順調ならば面積拡大も、と考えていました。

しかし、昨今の農業情勢から田圃の受託が年々増え、専業農家の規模になってしまいました。

イチジクは稲作と比べ面積当たりの収益は桁違いに見込めますが、手作業での管理が多いうえに、収穫時期が稲刈りと重なり、一人農業では限界があります。

最大のネックは、爬虫類が苦手ということ。田圃にもいますが他の場所でも作業し、時間が経てばいなくなります。イチジクの園地は一か所で囲まれた空間ですから・・・！



小規模の私がイチジクの事を語るのには「美味しいですが、完熟イチジクを食べ「美味しい」と言ってくれる親戚・知人の声を張り合いに、「気力と体力が続く限り」続けようと思っております。

【図書館】

福袋で本との出会い

西川図書館 松宮 渉

新年の風物詩の一つに福袋があります。様々な業種で売られていますが、皆様も買われるでしょうか。中身が見えずに運試し、というのが本来の福袋らしいですが、最近は透明な袋だったり、家電や旅行商品などの高額商品のように、あらかじめ中身が分かっていたりするものもあるようです。

西蒲区の図書館（西川・岩室・巻）でも、12月17日から福袋のイベントを行っています。図書館でいくつか用意したテーマから、好きなものを選んで借りていただき、福袋に入れてお渡します。もちろん中の本は返却していただきますが、イベントは無料です。ご安心ください。本はテーマに沿って図書館司書が選んでいます。興味のあるテーマから選ぶのもよし、新しいジャンルの本との出会いを求めるのもよしです。この機会に興味の幅を広げてみませんか。期間は来年1月15日までです。皆様のご来館をお待ちしております。



お知らせ

まちづくり懇談会の開催について
地域活性化に向けた持続的な事業にはどのようなものがあるか、健康、ふれあい、支えあいを深める継続的な事業を目指して、

まちづくり学校（NPO法人 山賀昌子氏）によるガイダンス

グループワークショップによる意見交換

日時：令和5年2月2日（木）午後2時～

会場：西川出張所3階・総合教育センター大

研修室

申込先：西川地域コミュニティ協議会

電話か直接（88）5900

申込締切：1月25日（水）まで

参加費：無料



コミュニティセンター入り口のX'masツリー

合同防災訓練研修会の開催について

日時 令和5年3月14日（火）

午後1時30分～3時

会場 新潟市総合教育センター大研修室

参加対象 自治会・町内会代表2名以内

【防犯】

詐欺ストップ！

西川交番所長 長谷川 允

今年に入って、西蒲警察署管内における特殊詐欺の発生状況は、11月15日現在で、

○ 認知件数 4件

○ 被害額 564万4000円

となっております。

詐欺の犯人は、言葉巧みに騙そう^{だま}としており、どんな人でも騙されてしまう危険性があります。

被害に遭わないためには、直接電話を受けない対策が必要です。

西蒲地区連合防犯協会では、令和5年1月20日までの間、ハガキなどの応募により、西蒲区・弥彦村で合計20名様に防犯機能付き電話機が当たる、お年玉プレゼントキャンペーンを行っています。

キャンペーンについてのお問い合わせは西蒲警察署 生活安全課

(0256-72-0110)です。



【伝統文化】

協働が支える「下山さいの神」

下山 高橋 信

40余年の時を超えて、昭和62年（1987）

1月18日に「下山さいの神」が復活した。古老の指導と保護者・有志の支援を受けて、児童会が関わった最大の行事がこのさいの神だったとのこと。以来途切れることなく、令和5年（2023）で、37回目を迎える。現在は、発足当時小学生だった人達と集落有志とで、実行委員会を組織し活動している。

塔を覆う「とば」を編むための藁は地元農家が確保し、「とば編み」は秋風のもと額に汗を滲ませながら、実行委員会・長栄会・小学生・育成部が行う。塔の柱は孟宗竹で、屋根組みは篠竹などを使う。竹は実行委員会が関係各所の協力を得て調達し、師走の寒風を物ともせずに、塔を立てる。



当日正午に泉上寺住職の読経とお祓いを受け、無病息災などを願う。ビニールハウス内の餅つきや振る舞いで、旧知の交流に花が咲く。コロナ禍で振る舞いは中止しているが、毎年、集落内外から百人程度の参加者がある。

おめでとうございます

第9回 日展 入選者

◎洋画 中野 雅友（六番町）

第50回記念県芸術美術展（芸展） 入選者

◎日本画 安藤 正雄（川崎）

◎洋画 大橋 豊子（八番町）

◎写真 田中 恵子（鮎一区）

第53回県ジュニア展 奨励賞

幼稚園・保育園

◎4歳児 岩堀陽樹・中野海靖（和光幼稚園）

小学校

◎1年 高井光希（鎧郷小）

◎3年 大竹晁瑠・中澤綾乃（曾根小）

長井 光（升潟小）

◎5年 赤川侑糸・藤田明莉（曾根小）

稲葉菜穂（鎧郷小）

◎6年 秋原萌々（升潟小）

令和4年度小学生交通安全ポスターコンクール入賞者

◎銅賞 本間菜椰美（鎧郷小2年）

編集後記

トラからウサギへうまく切り替わって欲しいものです。新型コロナウイルスを2類から5類にするとか、露のウクライナ侵攻とか、兎さんに重荷を背負わさないで下さい。祈るばかりです。

【編集委員】◎江端 繁◎灰野直義

近藤敏道 榎本 博 土田正博